

創価大学 牛田教授への質問

Q1: 牧口は、持続可能性については述べていないと分かりましたが、牧口が提唱している生活から出発して、生活へ戻るという理念は、ESD の考えと似ていると思いますが、いかがでしょうか？

A1: たしかにその通りですね。ただし順番が前後するのかもしれませんが。ESD が近代以降の教育学の考え方に似ているということになるのだろうと思います。知った上で、自分はどう生きるかを考えることにあるからです。

Q2: 牛田先生に質問です。郷土科という教科が現在の学習指導要領にはありません。現在の教科の他に「郷土科」を設定するべきか、現在ある理科や社会科を中核とすべきか、どのようにお考えかご教示頂きたいと思います。

A2: ご質問をありがとうございます。個人的には総合的な学習の時間をもう少しうまく使えないかとは思っています。ここを起発点と帰終点に出来れば、それがいわゆる郷土科的なものになれる可能性はあるかと思っています。牧口常三郎の授業実践記録はほんの一部を除いて現存していないからこそ、実践構想の未来は開かれていると考えています。

Q3: 牧口先生は、教育から仏教を求めたのは、なんだったのでしょうか？

A3: ここはとても難しいです。例えば、教師の生活では、教育技術が繰り返されます。そのなかには普遍的と言ってよいような技術があるはずだ、と牧口常三郎は考えました。それと同じく、人生それ自体(つまり生活)にも、従うべき法則があるはずだ、と彼は見たのではないかと推察されます。それゆえ、後に実験証明というタームも使われることになります。牧口は、法華経に帰依する前に、いろいろな宗教的なものを試したと述べています。そのうちのどれが生活改善に効力を有しているのか。彼は自分自身で試そうとしました。私のような人間が押し量れるものではないのですが、以上をまずは回答といたします。ありがとうございました。

Q4: 牛田先生ありがとうございました。今のご講演のもとになった論文はどうしたら読めるでしょうか？

A:4: 今回はこの講演用に原稿を書き下ろしています。そのため、まだ公表されていません。来年の4月には、創価大学の機関リポジトリで公開されることになるかと思えます。

西田小学校に対する質問

Q1:西田小の子供の幸福を第一に考えた教育の姿、感銘しました。西田小のような取り組みは他の学校でも一般的に行われているのでしょうか？

A1:改めて、「幸せ」「ハッピー」という言葉を前面に出している学校は少ないかもしれませんが、自分たちで主体的に活動しよう！という呼びかけは、どこの学校でも目指していると思います。ご質問、ありがとうございました。

Q2:コミュニティスクールとしての活動は、地域の連携等も含め教師の業務負担が大きく、活動を持続することが難しいと聞いたことがあります、実際どうなのでしょうか。

A2:杉並区の場合、全校がコミュニティスクールであり、全校に学校支援本部が設置されています。特に、学校支援本部の皆様は、過去にPTA会長などの経験のある方がメンバーになっていて、学校のこと、地域のことをよくご存じですし、どんな教育活動にどのような人材が必要なのか、どのような施設や店舗とのつながりが必要なのか、常に学校と連携を取り、手配をしてくださいます。時には、新しい人材や機関の紹介もしてくださいます。本校の場合、学校支援本部が発足以来積み重ねてきた人材や環境などがたくさんあり、毎年、各学年が要望を出し、早めに対応してくれています。教員が一から探してくることはほとんどなく、学校支援本部さんに相談すれば、ほとんどのことを実現していただけます。本校の学校支援本部のブログ「ニシタスいいます」と検索し、参考になさってください。以上のような状況ですので、教員の負担はあまり重くないと思います。むしろ、本校のユネスコスクールとしての教育活動は、ニシタスさんたちとの連携がなかったら、成り立ちません。ご質問ありがとうございました。